

福井県公共工事入札監視委員会の開催概要について

このことについて、平成22年度福井県公共工事入札監視委員会（第1回）を開催しましたので、その概要をお知らせします。

記

- 1 日 時 平成22年6月29日（火） 13:30～15:10
- 2 場 所 県庁6階 大会議室
- 3 出席委員 荒井委員、川崎委員、下中委員、藤井委員（五十音順） ※葉袋委員は欠席

4 議事次第

- (1) 開会
- (2) 議題
 - ・入札および契約に係る制度の運用について
 - ・抽出事案審議
 - ・談合その他の不正行為に関する事項について
- (3) その他
- (4) 閉会

5 会議概要

- (1) 入札および契約に係る制度の運用について（平成22年1月1日～平成22年3月31日）

- ・契約件数、落札率の状況について説明
- ・指名停止の運用状況について説明
- ・総合評価落札方式の実施状況について説明
- ・低入札価格調査の状況について説明

Q 無許可業者と契約した建設業法違反として指名停止をした案件について、建設業許可のない業者であれば、もともと県の入札参加資格がないから、指名停止をしても効果は生じないのではないか。

A 指名停止の対象となった業者は発注者で、受注者が無許可業者だという事案である。発注者は建設業許可を有している。

Q 21年度第2四半期の入札件数が多い理由は。

A 上半期8割発注を目標に、早期発注に努めたことによる。

Q 20年度に比べ、21年度は第4四半期の入札件数が多い理由は。

A 経済対策のため、2月補正予算で計上した工事を発注したため。また、分離・分割発注にも努めている。

Q 公共工事の予算は年々減っているが、年度全体の落札金額の合計はどうだったか。

A 21年度の落札金額は、全体で約550億円、20年度は、全体で約590億円であった。

(2) 抽出事案審議（事前に下中委員が抽出）

ア 地域活力基盤創造交付金工事（道路改良）21-9工事

Q 入札参加資格として、鉄道に関する技術の資格を有することを条件とした理由は。

A 「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」（国土交通省令）に、鉄道に関する作業を行う場合には必要な教育訓練がなされていなければならないと定められている。

Q 2者しか応札者がなかったが、入札参加資格の設定方法に問題はなかったか。

A 入札参加資格の地域要件は、県内全域に拡大して、応札可能業者を確保するよう努めた。

イ （県単）パークアンドライド渋滞対策モデル工事 その3工事

Q 2者が失格になっているが、失格理由は何か。

A 電子入札上、電子入札に用いるICカードの名義人は、入札参加資格者名簿の代表者と同一でなければならないが、失格となった2者は、代表者でない名義のICカードによる入札を行ったため失格とした。

Q 代表者名義でなければならないことは、周知徹底されていたのか。

A この入札を実施した後、再発を防ぐため、電子入札システムの入口の画面に、入札に参加する上での注意事項として、ICカードの名義と代表者の名義が一致していないと無効になる旨を掲載し、周知徹底を図っている。

ウ 通常砂防工事その3

Q 総合評価落札方式で行った結果、価格1位の者以外の者が落札しているが、価格以外の評価としてどのような項目があったのか。

A 地域精通度として、主たる営業所の所在が、工事施工場所の若狭町内であれば最大の2.5点を加点している。また、企業や配置予定技術者の技術力として、同種同程度の施工実績を有していた場合に最大1.5点を加点している。

エ 日野川総合開発吉野瀬川ダム（社会特会）遺跡表土はぎ工事

Q A等級を対象として発注しているが、その理由は。

A 表土下の文化財に傷をつけないよう、細心の施工が必要であり、重機操作において、精度が約5センチなど高度な技術を要求されることがあるため、特殊工事扱いとした。

Q 入札参加要件の施工実績に「埋蔵文化財の発掘の経験があること」を要件に求めなくともよかったか。

A この工事においては、埋蔵文化財センターの職員が常時立会いし、施工することとなるため、施工経験までは求めなかった。

オ 平成21年度経営体育成基盤整備事業（ほ場）第20号工事
特になし

(3) 談合その他の不正行為に関する事項について

・談合情報なしと報告

(4) その他

特になし